平成 29 年度　園長だより NO.25　【H30.2.16】

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（ 文責／園長 石川照代 ）

目からウロコ！ 自然環境も意図的に「構成」する幼稚園の先生方

それは、とてもとても寒い朝のことでした。「見て見て！ラピュタみたい！」女の子が大事そうに持ってきたのは、凍ってミルフィーユ状になった「土の塊」でした。よーく見ると、土の層の間に白い霜柱が見えました。庭では、年少さんが大きなスコップで黙々と霜柱を掘り起こしています。サクサクというスコップの手応えに夢中の子。土のついた霜柱をカップに集める子もいました。年中さんでは、外にあるお椀の水が凍って、取り出すとまるで氷のホットケーキのよう。年長さんでは、バケツに張った氷を割り、分け合って破片越しに見える景色に大喜びでした。寒い日には寒い日ならではの、とっておきの「遊び」が生まれるのだと改めて気付きました。水が凍るのは自然現象。中でも霜柱は庭や畑にでき、土中の水分や前夜の気温が関係します。条件が揃わなければ霜柱には出会えません。

ところが、私が知った「目からウロコ」の驚愕の事実は、これらのミルフィーユやホットケーキや氷の破片は、担任が意図した「環境」であったということです。翌朝は冷え込みそうだとわかれば、庭の土の表面を少し掻いて水を時き、色水遊びのお椀はわざとそのままにし、バケツやタライに水を張ってテラスに出しておくというのです。担任は、次の日の朝、霜柱や氷を見つけて喜んで遊ぶ子どもたちの姿を想像し、わくわくしながら出勤してきます。そして、予想通りなら「よっしゃ！」、予想が外れても「なるほど、そう来たか！」と思うらしいのです。

先生方は異口同音にこう言います。「子どもって面白い！」いいえ、私は思います。「幼稚園の先生って凄い！」

子育てアドバイス

「お片付けができない」ことに困っているお子さんは、ポイントは2つ。①戻す（などを変えるなどして戻す）場所がか、②戻す物の決め方が曖昧なこと。どちらも大人のかかわり方次第です。場所は、のぞきこむとすぐに目に入るような工夫をしましょう。②は「待ってあげること」と「できたらほめてあげること」です。どちらも大人の心のゆとりが肝ですね！

トントン止まってる？

校門前の横断歩道にある「止まれ」の足型マークがきれいに塗り替えられていることに気づいた子は何人いたでしょう？気づいたのは数人でした。でも、しっかり足を載せて止まってくれたのを見て、三浦さんはとても嬉しそうでした。そうです。塗り直して下さったのは守衛の三浦さんだったのです。別の日には「最近、笑顔で登園して来る子が多いですね。」と声を掛けてくださいました。これほどまでに子どもたちの事を考えて見守って下さる方がいることを当たり前と思わずに、感謝したいものですね。

新しいお友達も入ります。年長さんは一年生になり、自分の力で登校します。横断歩道の渡り方を、もう一度確認し、しっかり身につけさせたいですね。